

ごあいさつ

昭和二十四年（一九四九）に、旧東京美術学校と旧東京音楽学校が統合され、東京芸術大学となり五十四年が経過しました。

明治二十年に両校が設置されてから通算して創立一一六年となります。

新制東京芸術大学の五十四年にわたる歴史は、戦後の芸術研究教育の軌跡にも当たります。国際化される中での新制大学の芸術教育はいかにあるべきか、戦後の混乱期にあつての教授陣は教材や施設不足をカバーしながらの大学運営に励みました。カリキュラム作成にも、大胆な改革を試みるなど、努力がみられます。昭和三十年代半ばから検討が行われた大学院研究科の設置についても、芸術大学の将来構想実現の一つとみられます。平成十四年から検討がはじまった国立大学の独立行政法人化は、平成十六年の実施に向かって進んでおります。戦後昭和二十四年から数えてすでに新制東京芸術大学の半世紀にわたる歴史が刻まれております。

本書は二十一世紀の新しい歴史の扉をあける、記録の書となります。編集に関係した方々に心から御礼を申し上げます。

平成十五年十二月

東京芸術大学学長 平山郁夫